

国際情報検索ミニレポート(April 25, 2023) 検索結果の例

(1) WHO は COVID-19 のワクチン接種についてどうすべきとしているか(該当する URL と概要)

WHO の一般公衆向けのワクチン接種アドバイスページ(2022 年 4 月 13 日最終更新)によると、COVID-19 による重症、入院、死亡を強力に予防する安全で効果的なワクチンが利用できると書かれている(1)。既に何十億の人々がワクチン接種を受けていて、自分自身を守るためにはワクチン接種を受けることがもっとも重要なことの一つであり、新しい変異株が出現するのを止める助けにもなるとも書かれている。ブースター接種も含めて各国の保健当局が推奨する回数の接種を受けるべきとされている。2022 年 4 月時点で WHO が安全性評価をしたワクチンは以下の通りである。

AstraZeneca/Oxford vaccine
Johnson and Johnson
Moderna
Pfizer/BionTech
Sinopharm
Sinovac
COVAXIN
Covovax
Nuvaxovid
CanSino

しかし 2023 年 3 月 20-23 日の SAGE の会議で、接種対象者の重症化、入院、死亡リスクの違いや低リスクの人へのワクチン接種の費用対効果などを考慮し、推奨が大きく変わった。高齢者、基礎疾患のある成人、生後 6 ヶ月から 5 歳未満の子供、妊婦、最前線の医療従事者からなる高リスクグループは、半年から 1 年ごとに追加接種を継続すべきだが、基礎疾患のない 50-60 歳未満の成人、基礎疾患のある 6 ヶ月から 17 歳の子供からなる注リスクグループは 3 回接種まではすべきだが、それ以降の追加接種は不要で、基礎疾患のない 6 ヶ月から 17 歳の子供は低リスクなので、3 回までの接種は安全で効果的だが、疾病負荷の低さや費用対効果を考慮して、接種は各国の流行状況や事情により判断すべきとされた(2)。

(2) サル痘(monkey pox)の現状について説明せよ(該当する URL と概要)

2022 年 5 月上旬から、ヨーロッパや北米など非常在国も含む世界各地で同時に流行が報告されたことがあり、アフリカでは常在が続いているサル痘は、2022 年 1 月 1 日から 2023 年 4 月 18 日までで、110 カ国から報告があり、累積確定症例数は 87,039、疑い例は 1,051、死者は 120 に上っている。2022 年 5 月 13 日以降、症例の高い割合がそれまでサル痘伝播が報告されなかった国からの報告で占められているのが現状である。2023 年 4 月 3-9 日の一週間の症例数 83 例に比べ、次の一週間の症例数は 103 例と 24%増えた。増加の多くはアメリカと西太平洋で報告されている(3)。

(3) ProMED の情報には、WHO や CDC が提供している情報と比べてどういふ特徴があるか？

世界中の専門家からの最新情報が集まる反面、学術雑誌のピアレビューや政府機関の認証といった信頼性確認作業を経ていないため、誤情報や不確実な情報が含まれている場合があり、後に訂正されることも多いことを踏まえて情報を読むべきであるという特徴がある。

1. WHO. COVID-19 Vaccines Advice [Internet]. 2022 [cited 2023 Apr 25]. Available from: <https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/covid-19-vaccines/advice>
2. WHO. SAGE updates COVID-19 vaccination guidance [Internet]. 2023 [cited 2023 Apr 25]. Available from: <https://www.who.int/news/item/28-03-2023-sage-updates-covid-19-vaccination-guidance>
3. WHO. 2022-23 Mpox (Monkeypox) Outbreak: Global Trends [Internet]. 2023 [cited 2023 Apr 25]. Available from: https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpox_global/

